## ■工法概要

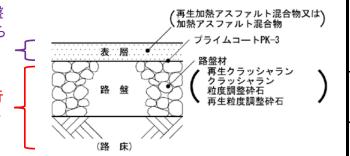
舗装の基層(路床・路盤)を建物躯体工事に先行して行なう工法。 通常、外構の舗装工事は、建物の躯体や外装工事が完了し足場を解体撤去 した後に行うが、当工法により、躯体や外装の工事時の場内の仮設動線・ ヤードとしての有効活用および外構工事期間の短縮を図ることができる。

### ■写真・イメージ・図面

2)表層は施工せず、ヤードなら路盤まま、仮設道路なら鉄板敷き



1)外構設備を先行施工したうえで、路床・路盤を先行施工





外構舗装基層を先行施工 した上の鉄板敷きによる 仮設道路



路盤砂利ままのサイトPCa ヤード と 鉄板敷きによ る仮設動線

# ■特徴·適用条件·注意事項 等

#### 【特徴】

・通常、ヤードに利用するならば路盤(砂利)のまま。仮設道路に利用するならば鉄板敷き。

特徴

・鉄板敷きではなく仮設舗装をする場合もある。表層の本設舗装は、仮設を剥がしたうえで行う。

効 果

・海外で鉄板リースが無い場合、コンクリートを打つ場合がある。その場合、後 で斫る必要がある。(コンクリート+斫りの方が安価な場合)

メリット

【工期】

・躯体が完了して足場撤去後、ただちに舗装工事を開始できる。

#### 【コスト】

i舗装基層工事が、仮設動線、ヤードの整備費を兼ねることができる。

適用条件 → 外構のレベル、外構埋設設備の早期決定が必要

特許なし

メーカー等なし

備考

No.2018-外構-05「外構設備工事の先行施工」参照

## ■検索用分類

— pariation 700				
検討時期	部位•種別	着眼点	効果	職種
■ Phase0(営業)	☑ 仮設	□ 繰り返し作業	□ Q	□ 鳶工
☐ Phase1(企画)	▽ 基礎	✓ 工程数削減	✓ C	✓ 土工
☐ Phase2(基本設計)	✓ 躯体(RC)	□ 標準化・モジュール化	D \[	□ 鉄筋工
☐ Phase3(実施設計)	☑ 躯体(S)	□ 省人化	□ s	□ 型枠工
✓ Phase4(施工準備)	✓ 外装	☐ IT化·高効率化	□ E	□ 左官工
☑ Phase5(施工)	□ 内装	□ 工場製品化・PCa化		□ 鍛冶工
	✓ 外構	□ ユニット化		□ 金属工
	☑ 設備	□ 機械化		□ 内装工
	□ IT化	✓ 多能工化・共業化		☑ 電工
	□ 特殊構工法	☑ VE•設計変更		✓ 配管工